

### 2.3.3 社会基盤施設の管理に関する課題

各インフラの現状や課題に基づき、鎌倉市のインフラ全体としての課題を整理した上で、実効性のあるマネジメント計画を構築することが必要です。

各インフラの現状や課題から、鎌倉市のインフラ全体の課題について、もの、金、人、情報の視点で整理し、それをまとめると表 2-41 のようになります。

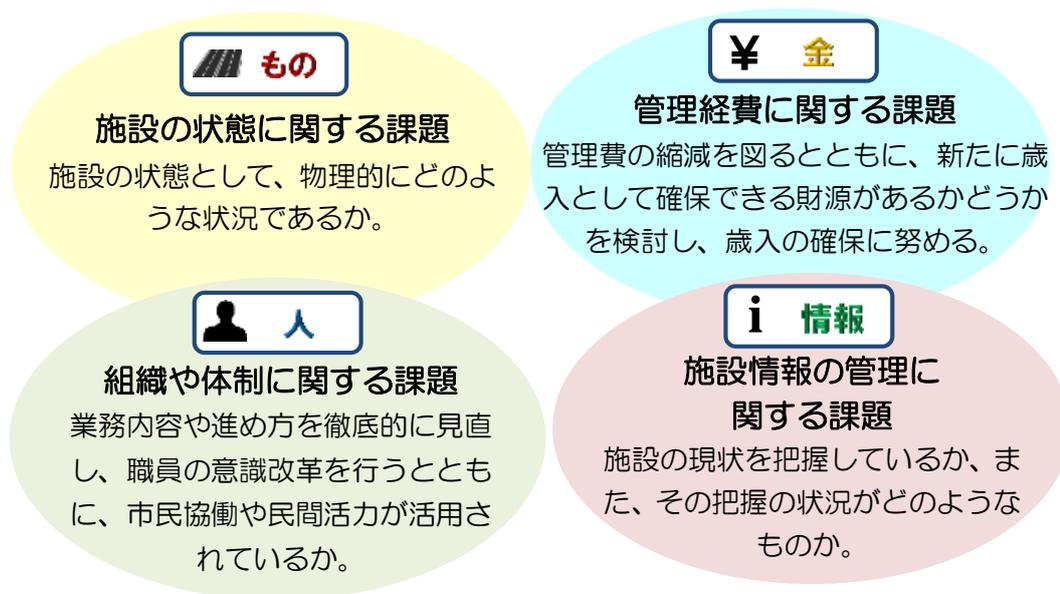


図 2-33 課題整理の4点 (図 2-14 再掲載)



表 2-41 施設ごとの現状とインフラ全体の課題

インフラ全体の課題	
<b>もの</b> 施設の状態に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>管理水準を満たしておらず、老朽化等により安全な利用ができない施設が存在する。</li> <li>老朽化への対応、地震や津波災害への対応が必要なインフラも多く存在する。</li> <li>施設の状態が把握されていないインフラもあり、全てのリスクが明らかになっていない状態である。</li> <li>景観と安全・安心が両立するインフラの管理が望まれる。</li> </ul>
<b>金</b> 管理経費に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>橋りょうとトンネルの点検義務化による維持管理経費の増加や老朽化に伴う補修更新経費の増加などにより、将来の管理経費は増加する。</li> <li>インフラの維持管理や補修更新に充当される市の予算は近年縮小し続けており、平成25年度(2013年度)の歳出額の規模では、ほとんどのインフラでこれまでと同じ品質で維持することが困難である。</li> <li>一部のインフラについては、現状が把握されていないため、将来必要な経費を予測することが難しいばかりでなく、今後、発生しうる事故などによる影響も把握できない。</li> </ul>
<b>人</b> 組織や体制に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>インフラの補修などを対処療法的に進めてきた現状から、長期的かつ計画的な管理を実現するための体制確保が必要である。</li> <li>緑地の管理においては、NPOの活躍や市民協働の取組みが行われているが、その範囲は限定的。施設の特性によっては、市民や企業との連携により、より良い維持管理が可能である。</li> </ul>
<b>情報</b> 施設情報の管理に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報管理のレベルはインフラによりばらつきがある。</li> <li>施設の諸元や数量等についても、その内容が不明確なものがあり、整備年度などの重要な諸元情報がないものも存在する。</li> <li>施設整備後、点検や調査等が行われておらず、現在の状態に関する情報が整理・把握されていないインフラも存在する。</li> </ul>

施設ごとの現状から、インフラ全体の課題を抽出

施設ごとの現状	一般会計							下水道事業特別会計				
	道路	橋りょう	トンネル	河川	雨水調整池	公園等	緑地	管きよ	下水道 終末処理場	中継ポンプ場	その他施設	雨水調整池
<b>もの</b> 施設の状態に関する現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>近年の交通需要に対応していない舗装構造が存在する。</li> <li>舗装以外は維持管理が充分ではない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>建設後50年以上経過した橋りょうが全体の14%である。</li> <li>道路法改正による5年ごとの点検義務化された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>通行禁止、応急対策が必要なトンネルが複数存在する。</li> <li>道路法改正による5年ごとの点検が義務化された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画雨量に対応できていない施設がある。(一部で浸水被害が発生)</li> <li>河川の拡幅は困難である。</li> <li>定期的な点検がされていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な点検がされていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実態調査から約6割の遊具で補修更新が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な点検がされていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大雨時に不明水の浸入や伏越施設等で流れが阻害される事に起因する溢水が発生している。</li> <li>予防保全のための優先順位が十分に整理されていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2箇所ある処理場のうち1箇所は老朽化し耐震性能が確保されていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地震時の津波により機能停止の危険性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画的な維持管理、補修更新が行われていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な点検がされていない。</li> </ul>
<b>金</b> 管理経費に関する現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>予算不足により維持管理が充分ではない。</li> <li>現状維持には費用が増加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>5年ごとの点検義務化により、新たな管理経費が必要になる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>5年ごとの点検義務化により、新たな管理経費が必要になる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>管理状況が不明確なため、今後の予算計画が困難である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>耐用年数から判断すると今後、補修更新経費が大幅に増加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>耐用年数から判断すると今後、補修更新経費が大幅に増加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後は購入した緑地の維持管理・補修費用が増加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>敷設年度が不明のものも多く、劣化状況の調査も不十分なため今後の予算計画が困難である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>処理場が2箇所あり管理経費増加の要因である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>7箇所あり管理経費増加の要因である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画的な維持管理、補修更新がされていないため、予算計画が不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>耐用年数から判断すると今後、補修更新経費が増加する。</li> </ul>
今後必要な経費試算※	2.79倍			2.15倍		1.93倍		2.73倍				
<b>人</b> 組織や体制に関する現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>財源不足、人手不足に対する市民協働、民間活力の活用は行われていない。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>指定管理者制度(一部の公園)を導入している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民ボランティア等による草刈など(一部の緑地)を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>財源不足、人手不足に対する市民協働、民間活力の活用は行われていない。</li> <li>地方公営企業法の適用に伴う「公営企業の経営戦略」の検討がされていない。</li> </ul>				
<b>情報</b> 施設情報の管理に関する現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>舗装計画がある。</li> <li>道路台帳(紙媒体)はある。</li> <li>道路付属施設にかかる諸情報が不足している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成24年度(2012年度)207橋のうち60橋の長寿命化計画が策定されている。</li> <li>平成27年度(2015年度)に残りの橋の長寿命化計画が策定される予定である。</li> <li>6割は建設年が不明である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>点検結果がトンネルごとにある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>管理台帳と補修履歴をまとめたものはない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一部管理台帳はある。</li> <li>補修履歴をまとめたものはない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遊戯施設の一部の点検・調査結果はある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>台帳はある。</li> <li>補修履歴をまとめたものはない。</li> <li>樹木倒壊の危険性が正確に把握されていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>敷設年度や劣化状況の把握が不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>台帳はない。</li> <li>補修履歴をまとめたものはない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>台帳はない。</li> <li>補修履歴をまとめたものはない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>台帳はない。</li> <li>補修履歴をまとめたものはない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一部管理台帳はある。</li> <li>補修履歴をまとめたものはない。</li> </ul>

※「今後必要な経費試算」は、近年最も低い額となった平成25年度(2013年度)の執行額に対し、現在の管理水準を今後40年間維持することを条件とした年間経費試算の増加割合である。